

ちよつとしい話

～ 愛別離苦 ～

「逢うは別れの始め」とは「知らぬ私じゃないけれど・・・」
と言う歌があったと思います。「愛別離苦」は釈尊の教え、
四苦八苦の中の一つです。最近、長久手での立て籠り事件が
起きました。原因は家庭内の夫婦不和合です。そのトバッチ
リを受け銃で撃たれ死亡した警察官は子供が生まれ幸せの
絶頂でした。しかし朝の別れが妻子との別れ、娑婆との決別
になってしまいました。今まさに彼の世の蓋が開こうとは、
本人も含め誰も予想しなかった事でしょう。やはり人生には
まさか、まさかさまが待ち受けており、一挙に不幸のど
ん底に転落してしまう事が御座います。「生を受けた我々は
時に忽然として逝去する」この理から法然上人は何時如何な
る時に於いても一心専念に称名念仏をなさいと奨励され
ました。法然上人が毎日称えられた不断念仏、「ただ一向に
念仏すべし」の真髓は人生には待った無しがあると言う事
でしょう。私達は母親の胎内に宿るにより、生命をいただきます。
これ即ち宿命です。宿命は因縁因果が100%含まれます。
因果は両親の両家、父方の祖父母、母方の祖父母までの諸行
が因縁となって、その結果が出て来るのです。即ち過去の
事績が自分という人間のこの世で生を受ける要因なのです。

「桃太郎」の話で分かる様に、おばあさんが川で桃を拾わなければ生を受ける事は無く、俗にいう流産で終わります。

宿命やどるいのちに係かかわる因縁いんえんが悪ければ悪いほど運命うんめいを切り開いて行かなくてはなりません。それには人正道はっしょうどう（正見・正思・正念・等々）を踏ふまえ、身しん・口く・意いの三業さんごうに因よる十善戒じゅうぜんかいを实践じっせんする事です。その為には自分を自分から離脱させ、少し離れた所から自分を見据みすえて、自分を図はかり知る必要があります。人の振りみて我が振り直せとは此の事です。己が行動に於いて、神・佛の意に叶えば自然に天地の恵みが戴けます。

社会生活を営む人間どもが共生ともいきの教訓ちよくごにする「勅語いわ」に曰く、「父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し、朋友相信じ・・・」とあります。不和合が引き起こす多くの事件に巻き込まれない様に、和合相を持続させる努力をする。まさに桃太郎が供をつれて鬼退治をする事と同じです。和合相とは先祖・先亡の魂の浄化と現存が共に救われた形かたちなり。「朋友相信じ」とは親はくあいに等しい博愛はくあいを具えた友ならば互いに信じ合えると言う事でしょう。そういう友ならば、一旦いったんかんきゅう緩急ある時は直ただちに親身しんみ（親が子供に対応する如く）になって対処して下さる事間違い無いでしょう。皆様、限りある命です。何時如何なる時に別れが来ても良いように覚悟する毎日を大切に生きたいものです。坦坦たんたん

善入院油掛地藏尊